

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2392200206		
法人名	株式会社イズミ		
事業所名	グループホーム真清田 (Aユニット)		
所在地	愛知県一宮市松降二丁目5番7		
自己評価作成日	平成25年10月16日	評価結果市町村受理日	平成26年 1月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2392200206-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2392200206-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成25年11月18日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ホームの理念を、スタッフが目の届くところ(玄関先・タイムカードの所等)に掲げ又申し送り時に復唱することを実施することにより、どのような介護をしていかなければいけないか基本的な物として、スタッフが理解できるようにとこころがけております。外出の機会を、月2回以上計画することにより、入居者様のADLの低下防止や楽しみを待って生活できるように心がけております。慰問の方々を定期的に招くことにより、外部との関わりや生活の質の向上に心掛けております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

利用者、家族、職員共に一緒に楽しんでいくホームづくりを心掛けており、特に外出支援に力を入れている。恒例の一泊旅行は、管理者、職員共に課題や悩みを一つひとつ乗り越えながら、また今年も実現に至った。  
管理者の「やって・みせて」の姿勢は、理念・運営方針から介護技術まで、幅広い理論の実践となっている。問題意識を職員に問いかけながら、主体性を伸ばすことに努めており、管理者に対する職員の信頼は厚い。  
毎日の積み重ねを大切にして、理念の実現に向けてまい進するホームの今後に期待したい。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送り前に理念を復唱している。新人スタッフの導入時に理念への思いを伝えている。	玄関に法人・ホーム独自の理念を掲示し、利用者、家族、職員などに広く公表している。ホーム理念は職員の総意で決めた理念であり、新人には直接思いを伝えている。	管理者の「理念に基づいた目標を作りたい。」の言葉に期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外で御近隣の方々に御逢いすれば、挨拶をする。また、近隣の喫茶店にスタッフや入居者様と一緒にでかけることにより、ご近所の方からお声を掛けて頂けることが多くなったように思う。	地域の美容院では、利用時にいただくお菓子が利用者の間で、ちょっとした楽しみになっている。町内会に加入し、近隣の有名な真澄田神社の祭礼に参加している。町内会長がボランティアとしてギター演奏に訪れる。	地域の社会資源として、保育園、幼稚園や小学校を活用されることに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に働きかけてはいないが、ほぼ毎日の午前中に近隣に散歩に出かける事により、顔なじみが増えたように思われる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加されて方々、お一人ずつご意見を頂き、サービス向上に活かすよう努めている。	利用者、家族、地域、行政、調剤薬局等が参加し、運営推進会議を年6回開催している。多くの家族の意見を反映するため、一人ひとりに出席の声掛けをし、時にはおやつレクの差し入れをして場を和ませている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通して、事業所の実情や活動報告を伝え、取り組みに理解して頂いていると思う。	近くに地域包括支援センターがあり、相談、報告、情報交換等、協力関係にある。市の主催する研修に職員が参加しており、利用者への支援向上を目指している。	地域包括支援センターが近くにできたことから、積極的に協働し、ホームの地域貢献に期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、理解が浅いため、今後勉強会など開催して、理解するように努める。	道路に面していることから、安全を優先して玄関を施錠しているが、施設長は恒常的な施錠に問題意識を持っている。職員には、確認の意味をもたせながら日々指導を行っている。外部研修を行った職員が内部研修を行うことで、知識向上・定着を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連について、理解が浅いため、今後勉強会など開催して、理解するように努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内外部の研修や勉強会を通じて、日常生活自立支援事業や成年後見制度について、理解するよう機会を設けていない今後、取り組もうと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様が今後の入居者様に対して、ホームでの生活にするにあたり、疑問に思う事や不安に思うことを把握して、説明を心掛けて、安心して頂けるように努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見やご要望が言ってもらえるような雰囲気作り、御面談時に伺うなどの努力につとめ、運営に反映できるように努めている。	年1回家族会を開催し、家族の意見を表す機会としている。毎月、ホームだよりで利用者の様子や行事予定を伝えるなど、情報を提供して家族の意見を収集できるよう工夫している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談との形をとらず、常に話しやすい関係づくりに努め、休憩時や退勤時などに声掛けをして、意見やスタッフの思いに近づける様努力しています。月1回のミーティング	ミーティング、勉強会、リーダー会議など、職員の意見反映の場は多い。レク、外出、園芸等、職員担当制があり、主体性を持ちホーム運営に携わる仕組みを設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの体調や性格・家庭背景などを理解して各スタッフに合った条件で勤めれる様に整備に心掛けていきます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ご自分の参加したい外部研修に参加して頂くことにより、より一層、知識が深まり又、各外部研修に参加した方が講師としての勉強会を実視している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム会議に参加するように努めている、又同法人では偶数月の第4金曜日に同法人のグループホームの施設長が集まり勉強会を開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の真意を理解して、良好な関係作りに努めております、又話しやすい雰囲気にも努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームで出来る事と出来ない事をご理解いただき、出来る限りのご要望にお応え出来るように努めて、ご安心してご入居頂けるように努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	会話からご家族様とご本人様の思いを受けられるように努力しております。又傾聴に徹して、真意に近づける支援が出来る様に努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症という病気を、重視せず人としての付き合いが出来る様、又、スタッフと入居者様との関係で無くお互い、一番の理解者である関係を、築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも、御家族様等の面会可能であり、外出や外泊、又定期受診はご家族様対応にて、家族の絆を大切にしています。ご本人様に対し、ご家族様が不安と思っ見える事は、こちらが察して、伺うようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様のご協力により、実現できているところと実現できていないところがある。馴染みの場所があれば、外出レクに取り入れていくように努めている。	今まで暮らしていた地域や自宅への外出支援を行っている。ホーム近くに夫婦で利用していた喫茶店があり、徒歩で職員と出かけてコーヒータイムを楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を日々、スタッフが理解して席の配慮したり、利用者様の間に入りトラブルにならないよう配慮を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	昨年、ホーム利用者で、永眠されたご本人様のご家族様に、御年賀の代わりに寒中見舞いを出しました。今後、継続して出すのかは、現状、不明。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初めて、居室に冷蔵庫を設置しお好きな時に好きな物を食べれる環境で暮らして見える、ご利用者様、をうけました、他の方々に同じ環境での生活は難しいように思われるが、出来るだけご本人様本位に努めております。	利用者の生活歴、性格などから個別に接し方を工夫し、利用者の思いを把握するよう努めている。把握した内容は介護記録、業務日誌に加え、毎月実施するカンファレンスを通じて全職員で共有している。	意向の把握と介護計画との関係性について、再度全職員と話し合いの場を持たれることに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメント以後、知りえた情報などは、アセスメント表に書き加えるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	声掛けを常に忘れず、顔色や表情などから、いつもの状態と違いはないか、申し送りやスタッフから今の状態を伺ったり常に状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回、ケアプランの見直しを、行なっている。前もってスタッフより今の問題点や意見などを提出してもらっている。ご家族様のご意見も反映できるよう伺っている。	月1回カンファレンスを実施し、6ヶ月を基本に介護計画の見直しを実施している。思いや意向を反映した「その人らしい」個別計画の立案は、今後のテーマとしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフが、記録場所のファイルがある場所を把握して、時間があれば見れるようにしている。申し送りノート・きづき・入居者様ノートと分けて、出勤時は、必ず見てからケアに入るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	情報に応じて柔軟な対応で、いろんな視点から支援が行なえるよう今後取り組んでいく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源に対する知識が乏しく、活用できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	情報提供を医師に提出することにより、ホームでの状態を的確に把握して頂くよう、心がけている。情報提供表を希望されるご家族には医師に提出したものと一緒の物をお渡ししている。	利用者、家族の希望するかかりつけ医への受診は家族対応とし、情報提供書を家族に託している。協力医は月2回の往診を行い、ホーム運営の理解者として協力する関係を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師、訪問時ご本人様の状態をお伝えしたり、又スタッフには言えないことなどの、真意を伺ってもらい、ホームで知ることにより、今後のケアに活かしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当のソーシャルワーカーに、情報を伺い、長期入院になる場合は、退院時、担当者会議を開いていただけるよう、ご依頼している。施設サマリーや退院時のサマリーは、必需となっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	具体的に話し合うことは、現状していないが、ご家族様・ご本人様が、望まれている生活をホームで送れる様努めていきます。	医療行為のない看取りの受入れを行えるように、職員の体制づくりなど準備を進めている。協力医はホームの看取りに理解をもち、家族を交えた話し合いにも積極的に関与する関係にある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習Ⅰを、スタッフ全員に受けて頂くようにしている。一連の流れを理解するように努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、夜間設定で避難訓練を実施、地域の方々には、運営推進会議を通じて、協力をお願いしている。	利用者をホーム内から避難させ、いざと言う時に役立てる避難訓練を行っている。消火器や通報訓練の他、スプリンクラーを設置済である。年に1回AEDの研修等に参加している。	備蓄を含め避難場所等、全職員を対象に再検討し、必要な情報については周知・徹底することを望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	大切にできるように心がけています。	職員は食事や歩行など利用者のペースに合わせて、自尊心を大切に接している。トイレの声かけでは、小声で対応している。部屋には内鍵を設けており、利用者のプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様がお気持ちを表明出来る様な、人間関係の維持に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限りで対応できるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	誕生日の時に、女性の方に化粧品や装飾品をプレゼントして喜んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事を把握して声掛けにより助けて頂き役割となっている。、盛り付け・お盆拭き・食卓拭き・洗い物・食器拭きなど細分化してお手伝いをしてもらっています。	献立作成担当の職員が、食事の嗜好、摂取状況を踏まえ、1ヶ月間のメニューを作成している。食材は利用者と一緒に買い出しをし、誕生日には利用者のリクエストメニューとし、ホーム合同の誕生会を開いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスよく献立をたて、どのような物を食しているか把握できている。時間に関係なく、水分は、飲みたい時に飲んでいただけよう、また、少ないようであれば声掛けをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行なっていただいております。週1回口腔衛生に歯科医の往診があり希望者は、受けてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、布パンツを着用頂けるよう、失禁の少ない入居者様に関しては試みている。パットの種類の検討も日頃の状態を見て、決めている。	職員は自立した排泄の継続を目指し、見守りに徹している。排泄記録を活用し、利用者個々に適した誘導や排泄の支援について話し合いを重ねている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の冷水やヨーグルトの摂取等個々の状態に応じて予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間が決まってい、個々の希望にそっていないが、1日4名と、時間を気にせずゆったりと入れるように心がけている。	1日置きを基本に、利用者のその日の入浴希望に可能な限り対応している。入浴拒否には時間を置いて誘うなどの工夫をしている。入浴剤を導入するなど、楽しくゆったりとした入浴になるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の部屋の為、夜にひびかない程度の休息は、いつでも自己の居室で休めるようになっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬変更時は、必ず、職員に伝達を行ない、様子観察を促している、又、前もって調剤薬局と連携をとり、どのような副作用が起こるか等は把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	常日頃、利用者様の役割・楽しみごとを追及して、提供できるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	午前、出来る限り散歩に出かけるように努めている、散歩に出かける場所も3カ所あり、ご希望を伺いながら出かけるようにしている。外出レクも月2回は行い、利用者様に行きたいところを聞くこともある。	日課の散歩中、近所の花を鑑賞しながら家人と世間話をしたり、馴染みの喫茶店などに出掛けている。ホームの取り組みとして、月に2回は外出しており、恒例の1泊旅行では家族も交え、よい思い出づくりとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム内では、ご本人様同士の貸し借りが発生しトラブルになりかけたため、それ以後は、お小遣いは事務所管理となる、買い物ツアー等の企画も推進していこうと思う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、家族との関係を見極めながら取り次ぐようにしているが、ご本人様が希望する場合は、入居者様の状態の応じて検討している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の応じて、壁飾りを替えたり、毎月玄関先の飾りの花を季節に合わせて変えている。	ソファやテレビが置かれた団らんの空間と、食事場所とが自然と分れており、利用者の気分メリハリをつけている。利用者の外出時やイベントなどの写真がたくさん飾りつけられており、利用者や家族がそれを見て話しを弾ませる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ8名座れて、集まれて、TVを楽しんだり、談話されて見える。東側の窓近くに長椅子を置くことにより、外を見ながらひとりの空間を楽しまれたり、時には、ヒミツの話でもされているのか？気の合った同士2人で談話されて見える		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、出来るだけご自宅でご使用されて頂いて家具などをお持ちいただけるようにお話している。	居室は毎日の掃除や整理整頓で清潔が保たれている。たんすや洋服掛けを持ち込み、趣味の折り紙で飾りつけるなど、利用者の個性を尊重した居室としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	適宜 手すりなどを設け、安全に歩行できるように努めている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2392200206		
法人名	株式会社イズミ		
事業所名	グループホーム真清田 (Bユニット)		
所在地	愛知県一宮市松降二丁目5番7		
自己評価作成日	平成24年11月15日	評価結果市町村受理日	平成26年 1月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2392200206-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2392200206-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成25年11月18日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ホームの理念を、スタッフが目の届くところ(玄関先・タイムカードの所等)に掲げ又申し送り時に復唱することを実施することにより、どのような介護をしていかなければいけないか基本的な物として、スタッフが理解できるようにところかけております。外出の機会を、月2回以上計画することにより、入居者様のADLの低下防止や楽しみを待って生活できるように心がけております。慰問の方々を定期的に招くことにより、外部との関わりや生活の質の向上に心掛けております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り前に理念を復唱している。新人スタッフの導入時に理念への思いを伝えている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外で御近隣の方々に御逢いすれば、挨拶をする。また、近隣の喫茶店にスタッフや入居者様と一緒にでかけることにより、ご近所の方からお声を掛けて頂けることが多くなったように思う。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に働きかけてはいないが、ほぼ毎日の午前中に近隣に散歩に出かける事により、顔なじみが増えたように思われる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加されて方々、お一人ずつご意見を頂き、サービス向上に活かすよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通して、事業所の実情や活動報告を伝え、取り組みに理解して頂いていると思う。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、理解が浅いため、今後勉強会など開催して、理解するように努める。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連について、理解が浅いため、今後勉強会など開催して、理解するように努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内外部の研修や勉強会を通じて、日常生活自立支援事業や成年後見制度について、理解するよう機会を設けていない今後、取り組もうと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様が今後の入居者様に対して、ホームでの生活にするにあたり、疑問に思う事や不安に思うことを把握して、説明を心掛けて、安心して頂けるように努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見やご要望が言ってもらえるような雰囲気作り、御面談時に伺うなどの努力につとめ、運営に反映できるように努めている。意見箱の設置		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談との形をとらず、常に話しやすい関係づくりに努め、休憩時や退勤時などに声掛けをして、意見やスタッフの思いに近づける様努力しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの体調や性格・家庭背景などを理解して各スタッフに合った条件で勤めれる様に整備に心掛けています。社員・準社員は、自己評価を年に1回は行ない、提出してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ご自分の参加したい外部研修に参加して頂くことにより、より一層、知識が深まり又、各外部研修に参加した方が講師としての勉強会を実視している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム会議に参加するように努めている、又同法人では偶数月の第4金曜日に同法人のグループホームの施設長が集まり勉強会を開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の真意を理解して、良好な関係作りに努めております、又話しやすい雰囲気にも努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームで出来る事と出来ない事をご理解いただき、出来る限りのご要望にお応え出来るように努めて、ご安心してご入居頂けるように努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	会話からご家族様とご本人様の思いを受けようように努力しております。又傾聴に徹して、真意に近づける支援が出来る様に努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬い助けて頂ける関係。人としての付き合いが出来る様、又、スタッフと入居者様との関係で無くお互い、一番の理解者である関係を、築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも、御家族様等の面会可能であり、外出や外泊、又定期受診はご家族様対応にて、家族の絆を大切にしています。ご本人様に対し、ご家族様が不安と見て見える事は、こちらが察して、伺うようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様の行きたいところへ、個別に実現は出来ていないが、外出レクなどに取り入れるように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を日々、スタッフが理解して席の配慮したり、利用者様の間に入りトラブルにならないよう配慮を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	昨年、ホーム利用者で、永眠されたご本人様のご家族様に、御年賀の代わりに寒中見舞いを出しました。今後、継続して出すのかは、現状、不明。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や行動・表情から利用者様の想いをうけとり出来るだけご本人様本位に努めております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメント以後、知りえた情報などは、アセスメント表に書き加えるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	声掛けを常に忘れず、顔色や表情などから、いつもの状態と違いはないか、申し送りやスタッフから今の状態を伺ったり常に状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回、ケアプランの見直しを、行なっている。前もってスタッフより今の問題点や意見などを提出してもらっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフが、記録場所のファイルがある場所を把握して、時間があれば見れるようにしている。申し送りノート・きづき・入居者様ノートと分けて、出勤時は、必ず見てからケアに入るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組まれていない、いろんな視点から支援が行なえるよう今後取り組んでいく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源に対する知識が乏しく、活用できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	情報提供を医師に提出することにより、ホームでの状態を的確に把握して頂くよう、心がけている、提供表を希望されるご家族には医師に提出したもの一緒の物をお渡ししている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師、訪問時ご本人様の状態をお伝えしたり、又スタッフには言えないことなどの、真意を伺ってもらい、ホームで知ることにより、今後のケアに活かしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当のソーシャルワーカーに、情報を伺い、長期入院になる場合は、退院時、担当者会議を開いていただけるよう、ご依頼している。施設サマリーや退院時のサマリーは、必需となっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	具体的に話し合うことは、現状していないが、ご家族様・ご本人様が、望まれている生活をホームで送れる様努めていきます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習Ⅰを、スタッフ全員に受けて頂くようにしている。具体的なマニュアル作成を検討中		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、夜間設定で避難訓練を実施、地域の方々には、運営推進会議を通じて、協力をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	大切にできるように心がけています。希望に応じて居室の施錠もしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様がお気持ちを表明出来る様な、人間関係の維持に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限りで対応できるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人が、好きな服装が出来る様、自己選択に心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事を把握して声掛けにより助けて頂き役割となっている。、盛り付け・お盆拭き・食卓拭き・洗い物・食器拭きなど細分化してお手伝いをしてもらっています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスよく献立をたてて、どのような物を食しているか把握できている。時間に関係なく、水分は、飲みたい時に飲んでいただけるよう、また、少ないようであれば声掛けをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行なっていただいております。週1回口腔衛生に歯科医の往診があり希望者は、受けてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、布パンツを着用頂けるよう、失禁の少ない入居者様に関しては試みている。パットの種類の検討も日頃の状態を見て、決めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の冷水やヨーグルとの摂取等個々の状態に応じて予防に取り組んでいる。主治医と相談しながら、下剤にて調節している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1日4名位は入浴できるように心がけて、時間を気にせずゆったりと入れるように心がけている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の部屋の為、夜にひびかない程度の休息は、いつでも自己の居室で休めるようになっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬変更時は、必ず、職員に伝達を行ない、様子観察を促している、又、前もって調剤薬局と連携をとり、どのような副作用が起こるか等は把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	常日頃、利用者様の役割・楽しみごとを追及して、提供できるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	午前、出来る限り散歩に出かけるように努めている、散歩に出かける場所も3カ所あり、ご希望を伺いながら出かけるようにしている。外出レクも月2回は行い、利用者様にいきたいところを聞くこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム内では、ご本人様同士の貸し借りが発生しトラブルになりかけたため、それ以後は、お小遣いは事務所管理となる、買い物ツアー等の企画も推進していこうと思う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、家族との関係を見極めながら取り次ぐようにしているが、ご本人様が希望する場合は、入居者様の状態の応じて検討している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の応じて、壁飾りを替えたり、毎月玄関先の飾りの花を季節に合わせて変えている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファー8名座れて、集まれて、TVを楽しんだり、談話されて見える。東側の窓近くに長椅子を置くことにより、外を見ながらひとりの空間を楽しまれたり、時には、ヒミツの話でもされているのか？気の合った同士2人で談話されて見える		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、うちでご使用させて頂いて家具などをお持ちいただけるようにお話している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	適宜 手すりなどを設け、安全に歩行できるように努めている。		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	介護計画の把握が出来ていない、また一人一人の思いや希望・意向などが把握できていない。	入居様の事が、全職員が理解できて、生活の質の向上が出来る。	入居様各一人ずつ、担当を決めて、計画作成を担当が中心となり、月の目標を決定していき、介護記録に目標を記入する。	3ヶ月
2	35	年に2回、昨年は夜間設定で、避難訓練を実施しましたが、参加出来ていないスタッフもあり、実際、災害が起こったときに不安がある。	年に3回は実施して、なんらかの形でスタッフが参加することが出来る。	前もって、月を決めて行いたいと思う(3月・6月・9月)に実施を予定する。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。